

令和5年度 研究発表大会 高校チーム

山梨県立青洲高等学校

チームメンバー

高野泰仁 内藤隆志 三枝敦子

伊藤伸一 矢崎 誠 角田恵一

所内アドバイザー 中込一成 上村泰子

山梨大学アドバイザー 齊木邦彦 小川弘一

研究推進校 (R4~R5) 山梨県立青洲高等学校

令和6年2月27日(火)

山梨県総合教育センター



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

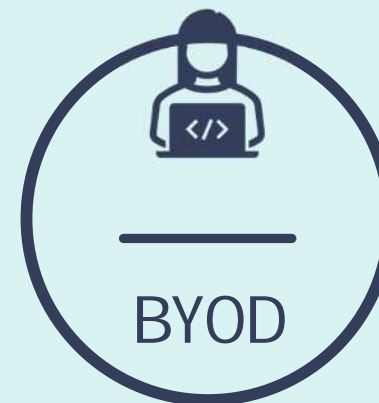
研究推進校の研究計画から

青洲高校の研究主題・副主題

「深化×進化 = 真価（魅力ある学校づくりへ）」

～自ら考え、つながり、挑み、成し遂げる力をつけさせることで、

主体的に社会を生き抜いていく生徒を育成する～



研究主題・副主題

主題・副主題

生徒が主体的・継続的に学習に取り組む

指導・評価の在り方に対する支援

～ B Y O D の利活用と観点別評価を通じて～



研究の目的

総合教育センター

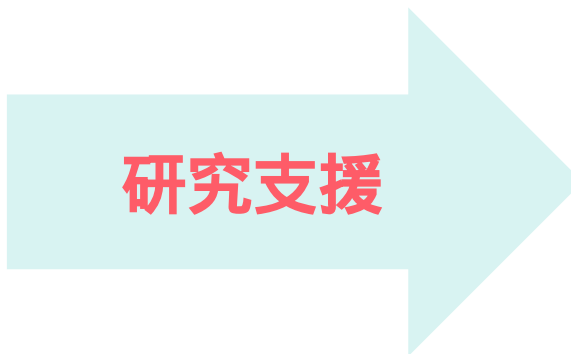


- ・成果と課題の検証
- ・実践事例の周知

学校のニーズ



研究支援



研究推進校



- ・研究の推進
- ・授業改善の取組

これまでの経過

1年目



英語と数学のみの実践

- ・ 先生方の当事者意識
- ・ 研究のための組織づくり

2年目



学校全体での取組

- ・ 全教科・学科で取り組む
- ・ センターから取組の提案

研究の方法



教科会議参加とTeamsの利用

- ・指導主事が教科会議に参加
- ・指導主事と教科の先生方が協働できるよう、Teamsのチームを作成
- ・チャットやオンライン会議の利用により、情報共有や相談が容易に



校内研究組織の構築・活用

- ・授業改善研究推進委員会設置
- ・学校全体で取り組む気運の醸成
- ・課題と成果の共有
- ・年4回実施



センターからの提案

- ・授業改善のための9つの視点
- ・学習サイクルを回すための動機付けモデル
- ・授業改善のためのチェックシート
- ・BYODの効果的な利活用



事前事後アンケートの実施

- ・Formsを利用
- ・7月と12月の2回実施
- ・生徒と教員の意識や実践の変容を調査

研究の方法



教科会議参加とTeamsの利用

- ・指導主事が教科会議に参加
- ・指導主事と教科の先生方が協働できるよう、Teamsのチームを作成
- ・チャットやオンライン会議の利用により、情報共有や相談が容易に



校内研究組織の構築・活用

- ・授業改善研究推進委員会設置
- ・学校全体で取り組む気運の醸成
- ・課題と成果の共有
- ・年4回実施



センターからの提案

- ・授業改善のための9つの視点
- ・学習サイクルを回すための動機付けモデル
- ・授業改善のためのチェックシート
- ・BYODの効果的な利活用



事前事後アンケートの実施

- ・Formsを利用
- ・7月と12月の2回実施
- ・生徒と教員の意識や実践の変容を調査

研究の方法



教科会議参加とTeamsの利用

- ・指導主事が教科会議に参加
- ・指導主事と教科の先生方が協働できるよう、Teamsのチームを作成
- ・チャットやオンライン会議の利用により、情報共有や相談が容易に



校内研究組織の構築・活用

- ・授業改善研究推進委員会設置
- ・学校全体で取り組む気運の醸成
- ・課題と成果の共有
- ・年4回実施



センターからの提案

- ・授業改善のための9つの視点
- ・学習サイクルを回すための動機付けモデル
- ・授業改善のためのチェックシート
- ・BYODの効果的な利活用



事前事後アンケートの実施

- ・Formsを利用
- ・7月と12月の2回実施
- ・生徒と教員の意識や実践の変容を調査

学校全体での取組（学校での実践）

授業改善研究推進委員会の実施



第2回授業改善研究推進委員会（R5.7.14）

学校全体での取組（学校での実践）

教科・学科	授業改善のための研究テーマ
国語	「主体的な学び・協働学習を通して、個を形成する」
地公	「自ら考え、つながり、挑み、成し遂げる生徒の育成を目指す授業」
数学	「BYODを利活用して生徒の学習サイクルの確立を目指す」
理科	「生徒の学習サイクルに即した観点別評価の研究」 ～「思考・判断・表現」の評価を中心に～
体育	「BYODの効果的な活用方法の模索」
芸術	「確実な観点別評価の取り組み方の研究」
英語	「学習サイクルを回すための教員の意識的な働きかけとBYODの利活用」
家庭	「自らの学習を調整するための自己評価と振り返り」
情報	「BYOD端末の利活用と観点別評価の研究」
工業	「BYOD端末の活用として、プレゼンテーション力の向上を目指す」
商業	「主体的な学びを通じて、商業の実践力を深める研究」

すべての教科・学科で授業改善のための研究テーマが設定され、授業改善研究推進委員会で共有されました。



研究の方法



教科会議参加とTeamsの利用

- ・指導主事が教科会議に参加
- ・指導主事と教科の先生方が協働できるよう、Teamsのチームを作成
- ・チャットやオンライン会議の利用により、情報共有や相談が容易に



校内研究組織の構築・活用

- ・授業改善研究推進委員会設置
- ・学校全体で取り組む気運の醸成
- ・課題と成果の共有
- ・年4回実施



センターからの提案

- ・授業改善のための9つの視点
- ・学習サイクルを回すための動機付けモデル
- ・授業改善のためのチェックシート
- ・BYODの効果的な利活用



事前事後アンケートの実施

- ・Formsを利用
- ・7月と12月の2回実施
- ・生徒と教員の意識や実践の変容を調査

授業改善のための9つの視点を提案

9つの視点

生徒の主体的・対話的で深い学び

導入

1．学習者の注意を喚起する

1．興味や関心を見つけ出す

2．学習目標を知らせる

2．目標を立て、学びの見通しをもつ

3．前提条件を確認する

3．関連して知っていることを確かめる

4．新しい事項を提示する

4．新しく学ぶことに会う

展開

5．学習の指針を与える

5．どのように学べばよいのか考える

6．練習の機会を設ける

6．学んだことを活用・説明する

7．フィードバックする

7．自分（たち）の考えを更新する

まとめ

8．学習の成果を評価する

8．学習の成果と課題をふりかえる

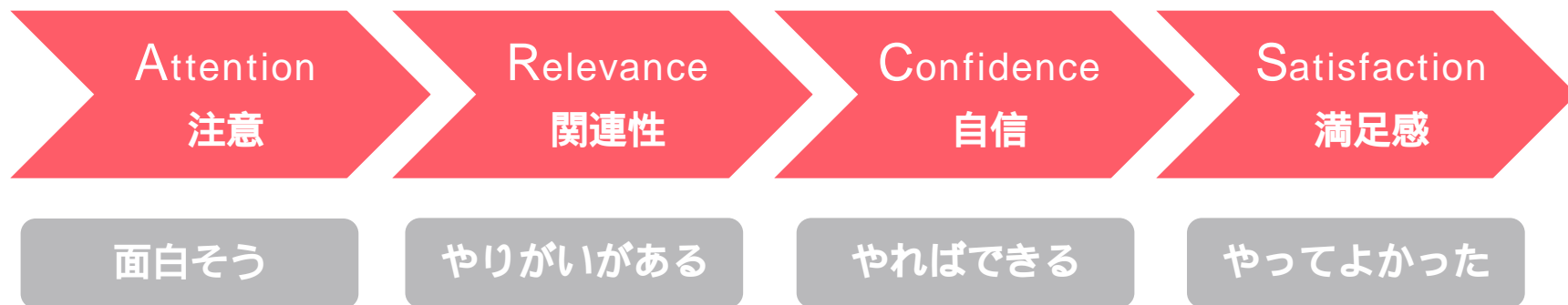
9．保持と転移を高める

9．学んだことを別の課題にいかす

主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業改善の9つの視点を提案。



動機付けモデルを提案



先生方が普段の授業の中ですでに実践されていることを、より意識的に取り組むことで授業改善・指導改善が図れると考え、学習意欲向上モデルを提示。



ARCSの下位分類と手立ての例 (鈴木 1995a; ケラー2010より作成)

『教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』(2022)より

下位分類	学習意欲を高める工夫の例
A-1. 知覚的喚起	学習者の興味をひくために何ができるか？ 驚きのある・物珍しさ(新奇性)のある・ユーモアのある事象を提示する, 抽象的ではなく具体的に, 図などの視覚的手段を用いる
A-2. 探究心の喚起	どうすれば探究的な態度を引き出せるか？ 好奇心を刺激する, 問題の提示や解決への関与, 問題を学習者に作成させる, これまでの知識との矛盾を提示, 疑問や謎のなげかけ, 学習者のなぜを大切に
A-3. 変化性	どうすれば学習者の注意を維持できるか？ マンネリを避ける, 声に抑揚をつける, 環境を変える(教室移動), 普段と違う授業の組み立て, 気分転換をはかる, ダラダラ進めずに時間を区切る
R-1. 目的指向性	どうすれば学習者のニーズを満たすことができるか？ 意義のある目標設定, 将来的価値の指摘, 今努力することのメリット(有用性や意義)の強調, 目的を自分で決めさせる
R-2. 動機との一致	いつどのようにして学習者の学習スタイルや興味と関連づけられるか？ 学習活動自体を楽しませる, 友達との共同作業, 班対抗の競争, ゲーム化, 目標達成の手段を自分で選ぶ, 安心感や心地よさを与える
R-3. 親しみやすさ	どうすれば学習者の経験と授業を結びつけることができるか？ 親近感の持てる(身近な)例, 学習者の関心のある得意分野からの例, これまでの勉強とのつながりの説明, 比喻やたとえ話, 学習者の名前で呼ぶ
C-1. 学習要求	どうすれば成功の期待感を持つように支援できるか？ ゴールの明示, 頑張ればできそうな・高すぎず低すぎないゴール設定, チャレンジ精神の刺激, 目標との隔たりの確認, 評価基準の提示
C-2. 成功の機会	学習経験がどのように自らの能力に対する信念を高めていくのか？ 一歩ずつでき具合を確かめながら進ませる, リスク無しの練習の機会, 失敗から学べる環境, 過去の自分との比較による成長の実感, やさしいものから難しいものへ
C-3. コントロールの個人化	成功の結果を自らの努力と能力によるものと認識できるか？ 自分が努力して成功したという実感を持たせる, 個別のペースで, 学習者が学習方法を制御できる, 勉強のやり方やヒントの提供, 選択式ではなく記述式のテスト
S-1. 自然な結果	どうすれば獲得した知識やスキルを活用する機会を提供できるか？ 成果を生かすチャンス(成果活用場面の埋め込み), 応用問題への挑戦, 設定した目標に基づく成果の確認, 子ども同士で教え合う機会の提供
S-2. 肯定的な結果	何が学習者の成功を強化するだろうか？ ほめて認める, 教師からの励まし, 何らかの報酬を与える, 成果の重要性や利用価値の強調, 成果を喜びあう仲間づくり, できたことに誇りをもたせる
S-3. 公平さ	どうすれば自らの成果を肯定的に捉えるよう支援できるか？ えこひいきなしの公平感を与える, 首尾一貫した授業運営を行う, テストに引っかけ問題を出さない, 期待(授業中の約束事)を裏切らない

動機付けモデルの項目ごとに、学習意欲を高める工夫の例を示し、授業改善の取組に生かしてもらうことを提案しました。



チェックシートによる意識化（学校での実践）

学習サイクルが自然に回る 授業改善チェックリスト

山梨県立青洲高等学校 山梨県総合教育センター

アメリカの教育心理学者ジョン・ケラーは、学習者の「意欲」に着目し、Attention・Relevance・Confidence・Satisfactionの4つの視点から授業を設計することを提案しています（ARCS動機づけモデル）。ARCSモデルに基づいて、日々の授業を振り返ってみませんか？

Attention 探究心	Relevance 学習に対する気持ち	Confidence 自信	Satisfaction 満足感
<input type="checkbox"/> 学習者の関心を引くことができた <input type="checkbox"/> 学習者の好奇心を刺激することができた <input type="checkbox"/> 授業に変化を持たせ、マンネリを回避することができた	<input type="checkbox"/> 学ぶ目的・意義を意識させることができた <input type="checkbox"/> 学習自体を楽しませることができた <input type="checkbox"/> 学習内容に親近感を持たせることができた	<input type="checkbox"/> ゴールと評価基準を提示、成功した自分の姿をイメージさせている <input type="checkbox"/> スモールステップで成長を実感できるような授業設計となっている <input type="checkbox"/> 努力と成果の相関性を担保している	<input type="checkbox"/> 学習成果を実際に使う場（パフォーマンス課題等）を設定している <input type="checkbox"/> 教師や仲間と学習成果を認めあえるような人間関係ができている <input type="checkbox"/> 評価の妥当性を担保し、学習成果が本物であることが保障されている
<input type="checkbox"/> 見るからつまらなそう <input type="checkbox"/> 興味・関心を持たせられない <input type="checkbox"/> 目新しさが無い	<input type="checkbox"/> 学ぶ目的が見えない、何のために学ぶのかわからない <input type="checkbox"/> 授業がつまらない <input type="checkbox"/> やらされ感しかない	<input type="checkbox"/> 何を目標しているのかわからない、自分の現状がわからない <input type="checkbox"/> 成長を実感できない <input type="checkbox"/> 努力してもできない、努力しなくてもできる	<input type="checkbox"/> 学習成果を使う場（応用問題、パフォーマンス課題、教えあう機会）がない <input type="checkbox"/> 認めてくれる存在がない <input type="checkbox"/> 不公平・信頼性の低い評価

ARCS動機づけモデルに基づいて、日々の授業を振り返ってみませんか？ 授業改善チェックリスト

山梨県立青洲高等学校 山梨県総合教育センター

Date	Attention:探究心	Relevance:気持ち	Confidence:自信	Satisfaction:満足感
	学習者の関心を引くことができた 学習者の好奇心を刺激することができた 授業に変化を持たせ、マンネリを回避することができた	学ぶ目的・意義を意識させることができた 学習自体を楽しませることができた 学習内容に親近感をもたせることができた	ゴールと評価基準を提示、成功した姿をイメージさせている スモールステップで成長を実感できるような授業設計となっている 努力と成果の相関性を担保している	学習成果を実際に使う場を設定している 教師や仲間と学習成果を認めあえるような人間関係ができている 評価の妥当性を担保し、学習成果が本物であることが保障されている
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				



センターからの提案を受け、青洲高校では上記のような授業改善チェックリストを作成し、学校で行っている授業の相互参観に合わせて利用。

拡大校内研究会の指導案に反映（学校での実践）

研究授業の指導案から

英語科の例

(2) 展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準〈評価方法〉
5	<ul style="list-style-type: none"> PCを立ち上げておく ○【Greeting】 ・あいさつをする ・スモールトーク ・本時の目標と流れを確認する 	PCの準備を促す <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする ・ペアでの会話を指示する ・本時の目標と流れを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気づくりのための活動（視点1, 2）R

理科の例

展開 （エキスパート活動）	2. 第5時に行った自身の実験結果をもとに、海藻がもつ光合成色素について個人でまとめる。(5分)	・まとめる際には、第4時の陸上植物や原核生物の実験結果と照らし合わせながら、共通点や相違点を探そう促す。	視点3
	3. 3種の海藻(緑藻類・紅藻類・褐藻類)のそれぞれのグループ(エキスパート班)に分かれ、個人のまとめをもとに議論と確認を行う。(10分)	・Rf値は、気温や抽出液、展開液等の条件によっても大きく変わるので、参考として用いるよう注意させる。	視点5
	○緑藻類であるスジアオノリは、陸上植物と同じクロロフィルaとbを持っている。	・ホームグループ(ジグソー班)の班員への伝達内容についても確認するよう促す。	
	○紅藻類であるスサビノリには、クロロフィルaはあるがbはない。		

9つの視点

導入	1. 学習者の注意を喚起する
	2. 学習目標を知らせる
	3. 前提条件を確認する
	4. 新しい事項を提示する
展開	5. 学習の指針を与える
	6. 練習の機会を設ける
	7. フィードバックする
まとめ	8. 学習の成果を評価する
	9. 保持と転移を高める

動機付けモデル



BYODの利活用

強化

Enhancement

Substitution
(代替)



黒板 **大型ディスプレイ等**

Augmentation
(拡張)



アンケート調査用紙 **Forms等**

変換

Transformation

Modification
(変容)



スピーチ動画の課題等

Redefinition
(再定義)



学習支援アプリによる学習等

Teamsの利用を
中心に教員の
ICTスキルの向
上につながる校
務や授業での活
用を提案。



BYODの利活用 研究の取組での利用

Formsによるアンケート



青洲高校 家庭科 授業改善のための生徒用アンケート

14 件の回答



青洲高校 地歴・公民 生徒用アンケート

209 件の回答



青洲高校 保健体育科 授業改善のための生徒用アンケート

26 件の回答



青洲高校 商業科 授業改善のための生徒用アンケート

33 件の回答



青洲高校 理科 生徒用アンケート

173 件の回答



青洲高校 工業科 授業改善のための生徒用アンケート

22 件の回答



青洲高校 国語 生徒用アンケート

209 件の回答



青洲高校 数学 生徒用アンケート

239 件の回答



青洲高校 情報 授業改善のための生徒用アンケート

33 件の回答



青洲高校 教員アンケート

40 件の回答



青洲高校 芸術科 授業改善のための生徒用アンケート

24 件の回答



青洲高校 英語 生徒用アンケート

252 件の回答

Formsを利用して、教員・生徒の負担軽減とスキルの向上

BYODの利活用 拡大校内研究会の研究授業から

1年 数学

「図形と計量」



1年 論理・表現

「Writing an Article about Your School」



2年 生物

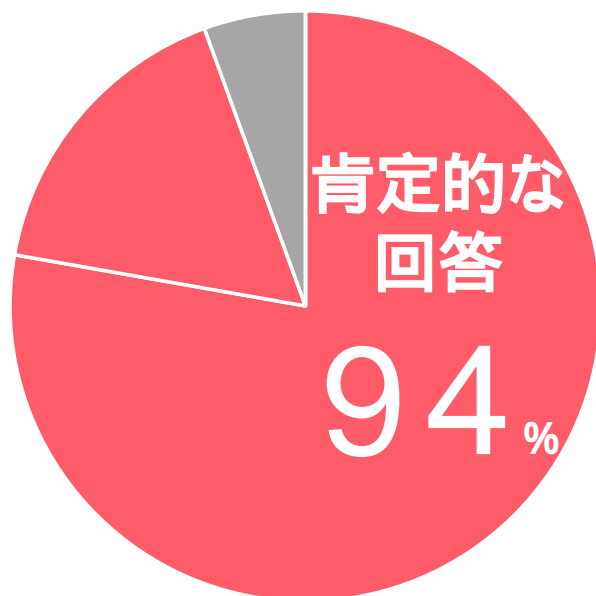
「生物の系統と進化」



生徒が個人端末を利用して学習することが当たり前

BYODの利活用 拡大校内研究会参加者から

公開授業では、生徒たちはBYODを効果的に活用していたと思いますか



■ そう思う ■ 少しそう思う
■ あまりそう思わない ■ そう思わない

- Excelによるデータの共有で、多くのデータから実験結果の比較検討ができていた。Formsでの前時の復習、大型モニターの利用も効果的であった。（数学）
- 生徒たちが工夫してPCを活用していた。生徒が自ら英語とパソコンを駆使して学習に取り組む姿が印象的だった。（英語）
- 実験結果の写真保存やTeamsによる実験結果の共有等、BYODが効果的に活用されていた。（理科）

研究の方法



教科会議参加とTeamsの利用

- ・指導主事が教科会議に参加
- ・指導主事と教科の先生方が協働できるよう、Teamsのチームを作成
- ・チャットやオンライン会議の利用により、情報共有や相談が容易に



校内研究組織の構築・活用

- ・授業改善研究推進委員会設置
- ・学校全体で取り組む気運の醸成
- ・課題と成果の共有
- ・年4回実施



センターからの提案

- ・授業改善のための9つの視点
- ・学習サイクルを回すための動機付けモデル
- ・授業改善のためのチェックシート
- ・BYODの効果的な利活用



事前事後アンケートの実施

- ・Formsを利用
- ・7月と12月の2回実施
- ・生徒と教員の意識や実践の変容を調査

研究の方法

事前・事後アンケートの実施 (Forms)

対象

- ・新課程の授業を担当する教員
- ・原則として新課程の1年生と2年生

質問項目

- ・センターからの取組提案に関連した内容
- ・教員アンケートは、それぞれの項目について、重要度の認識と実践の度合いの2つについて尋ねる

実施方法・実施時期

- ・Formsを利用
- ・7月と12月

回答者数

- ・教員 (7月 : 40名、12月43名)
- ・生徒 (7月 : 1234名、12月 : 1330名)



研究の方法



教員用アンケート（9つの視点・動機付けモデル・ICTの活用）

- 1 授業において、生徒の興味を引くための工夫をする。
- 2 授業において、（単元または本時の）学習目標を生徒と共有する。
- 3 授業において、生徒に学び（内容と方法）を振り返らせる。
- 4 授業において、生徒に思考が深まるような発問をしたり、課題を与えたりする。
- 5 授業において、生徒に効果的な学び方を考えさせる。
- 6 授業において、生徒に学んだことを練習・活用させる機会を設定する。
- 7 授業において、生徒にフィードバック（中間指導など）を行う。
- 8 授業（各単元）において、生徒と評価の観点を共有し、適切に評価を行う。
- 9 生徒に、授業で学んだことを生かして、各自の学習上の課題に取り組ませる。
- 10 授業において、ICT端末を活用して授業が効果的になるようにする。

研究の方法

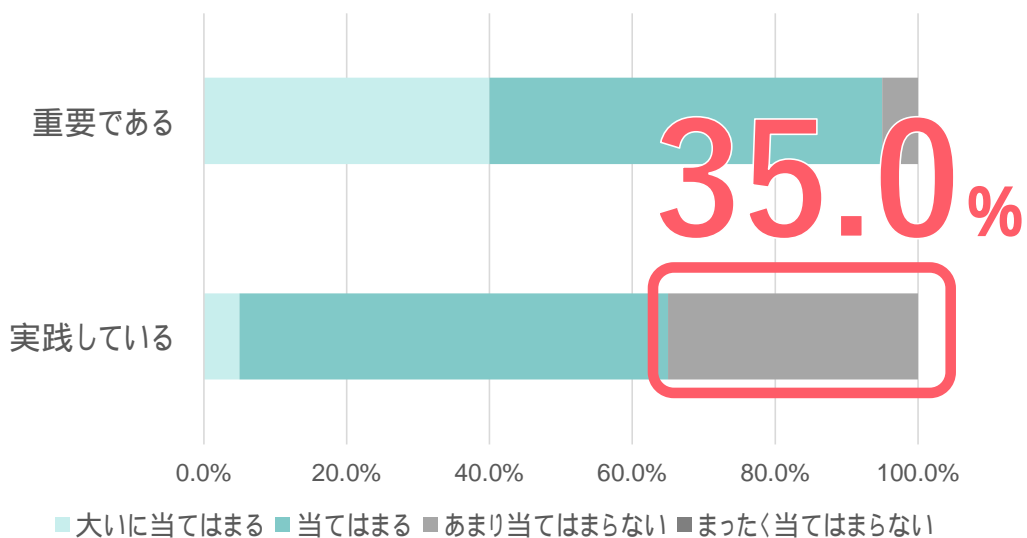
 各教科の**生徒用**アンケート（9つの視点・動機付けモデル・ICT）

- 1 私は、授業に**興味や関心**をもって臨んでいる。
- 2 私は、学習において**目標**を持ち、**見通し**をもって学んでいる。
- 3 私は、学習の成果や課題を**振り返って**、次につなげるようにしている。
- 4 私は、課題に取り組むことで**考えが深まっている**。
- 5 私は、**効果的な学び方**について考えている。
- 6 私は、授業で学んだことを**練習**したり、**活用**したりしている。
- 7 私は、学ぶことで自分の**考えを改めたり**、**新しい考えを持ったり**している。
- 8 私は、先生が示す**評価の観点**を理解している。
- 9 私は、授業で学んだことを生かして、**自分の学習上の課題を解決**している。
- 10 私は、学習を効果的にするために、**ICT端末を利用**している。
- 11 （各教科で問いたい記述または選択の設問を追加する）

7月のアンケート結果から

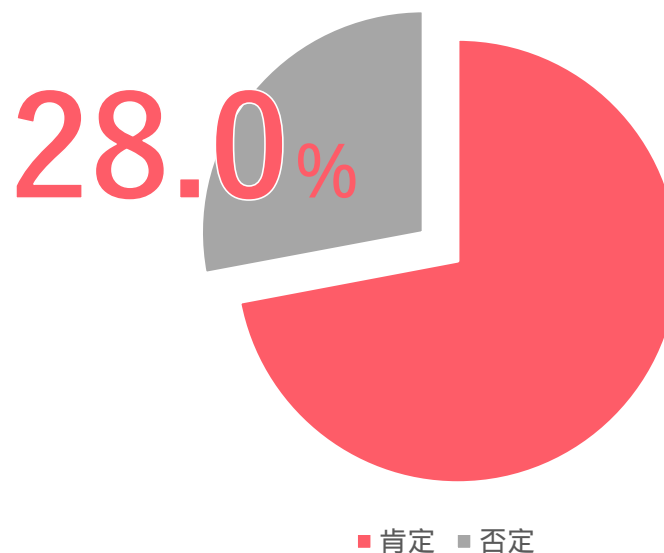
教員

授業（各単元）において、生徒と評価の観点を共有し、適切に評価を行う。



生徒

私は、効果的な学び方について考えている。



上記の2項目について、否定的な回答が多いことが判明

センターから学校へのフィードバック

評価の観点の共有と適切な評価の実施



生徒が自らの学び方を考える指導



授業改善のポイントとして提示し、指導・助言

教科での実践例

評価の観点の共有と適切な評価の実施

1年 英語科の例

③ 学校紹介 Video clip のためのルーブリック

	A 3点	B 2点	C 1点
話し方	声の大きさがちょうどよくわかりやすい。抑揚やアイコンタクトを使って、聞き手にわかりやすく伝えようとする、配慮がなされている。	言っていることはわかるが、抑揚やアイコンタクトが少なく、聞き手に対する配慮が十分ではない。	声が小さくわかりづらい、原稿をずっと見ている。発話が途切れ途切れ、早口、または遅すぎる。
情報量	青洲高校の魅力が十分伝わった内容である。知らなかった情報が含まれており、興味深い内容である。	青洲高校の様子がわかる内容である。知っている内容が多く、もう少し詳しく知りたい。	情報量が少なく、内容が乏しい。何を言いたいのかははっきりせず、青洲高校の様子がよくわからない。
構成	発表の形式に従っている。取り上げた話題についての説明として、わかりやすい構成になっている。	文と文の間につながりがあり、1つの文章としてまとまっている。	1つの文章としてのまとまりがない。文を並べただけ。
発表の工夫	青洲高校の魅力が上手く伝わるような工夫がなされている (ジェスチャー、表情、PowerPoint の見せ方、画面構成など)		1点

学校紹介 Video clip (原稿) における具体的なゴール (情報量・構成が「B」の生徒の解答例など)

Hello, everyone. I'm ○○ (生徒の名前). I would like to talk about my favorite subject at Seishu High School. It is History. I have two reasons. First of all, I like world history. Especially, I am interested in European history. Second, what I like about it is that we can discuss and share our opinions with group members in history class. I can improve my thinking skills. That is why, I like history and I want to keep studying it as hard as I can.

1年 数学科の例

	A (とてもよい)	B (ふつう)	C (あと一歩)
知識技能	学んだことを使って応用的な問題が解けた。理解したことを他人に説明できた。	学んだことを使って基本的な問題が解けた。	学んだことが使えなかった。
思考判断表現	自分の考えを図や式に整理しながら話すことで、他人に理解してもらえた。	自分の考え (分かったこと・分からなかったこと) を話すことができた。	説明を受けることにとどまった。
主体的に取り組む態度 (授業中)	グループのメンバーを巻き込み、働きかけながら学び合いができた。	授業・グループの学び合いに参加した。	授業・学び合いに参加しなかった。
主体的に取り組む態度 (授業外)	興味・関心や自らの進路を考慮して、課題だけでなく自主的な取り組みが顕著だった。	課題の意義を理解し取り組んだ。自分に合った課題を見つけ取り組んだ。	授業外での取り組みは皆無だった。課題を提出しなかった。

事前に観点を共有するとともに、記録として残し、生徒が自ら振り返ることができる工夫

教科での実践例



生徒が自らの学び方を考える指導

2年 理科（生物）

この単元の学習を振り返って、あなたの中で何がどのように変わりましたか？学習していく中で、分からなかったことや疑問に思ったことをどのように解決しようと思いましたか？次の単元の学習に向けて、どのように学習していきたいですか？

()年()組()番 氏名 ()

生物の授業で使用している振り返りシートから抜粋

- ・学習の振り返りとして、自己の変容や、次の単元に向けて、**どのように学習していきたいか**を記入させるようになっている。
- ・学習内容だけでなく、**自身の学び方を考える**ことで、**学習が主体的になるような工夫**がされている。

取組後のアンケートの変化から



教員用アンケートの結果（実践について）

No	質問項目	7月	12月
1	授業において、生徒の興味を引くための工夫をする。	90.0%	88.4%
2	授業において、（単元または本時の）学習目標を生徒と共有する。	90.0%	88.4%
3	授業において、生徒に学び（内容と方法）を振り返らせる。	85.0%	81.4%
4	授業において、生徒に思考が深まるような発問をしたり、課題を与えたりする。	77.5%	88.4%
5	授業において、生徒に効果的な学び方を考えさせる。	70.0%	72.1%
6	授業において、生徒に学んだことを練習・活用させる機会を設定する。	80.0%	76.7%
7	授業において、生徒にフィードバック（中間指導など）を行う。	60.0%	79.1%
8	授業（各単元）において、生徒と評価の観点を共有し、適切に評価を行う。	65.0%	76.7%
9	生徒に、授業で学んだことを生かして、各自の学習上の課題に取り組ませる。	62.5%	81.4%
10	授業において、ICT端末を活用して授業が効果的になるようにする。	82.5%	81.4%

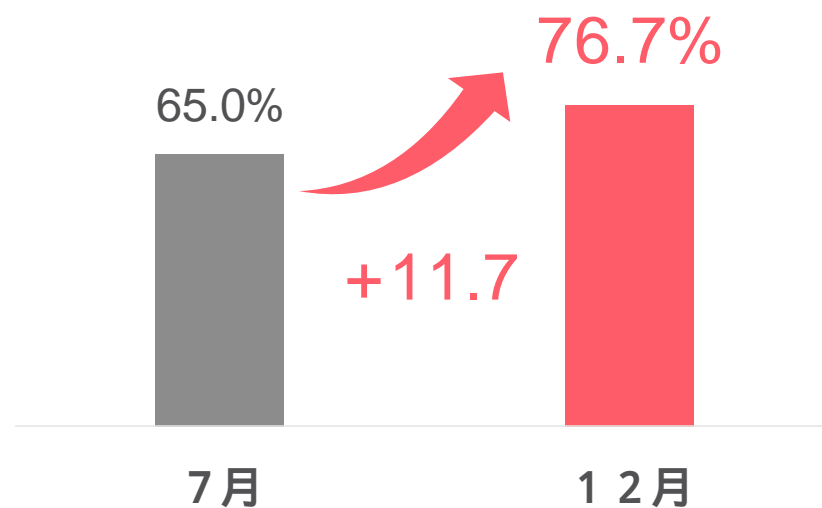
1 回目のアンケートで 8 割に届かなかった項目は**すべて増加**

取組後のアンケートの変化から

評価の観点の共有と適切な評価の実施



8. 授業（各単元）において、生徒と評価の観点を共有し、適切に評価を行う。（実践）

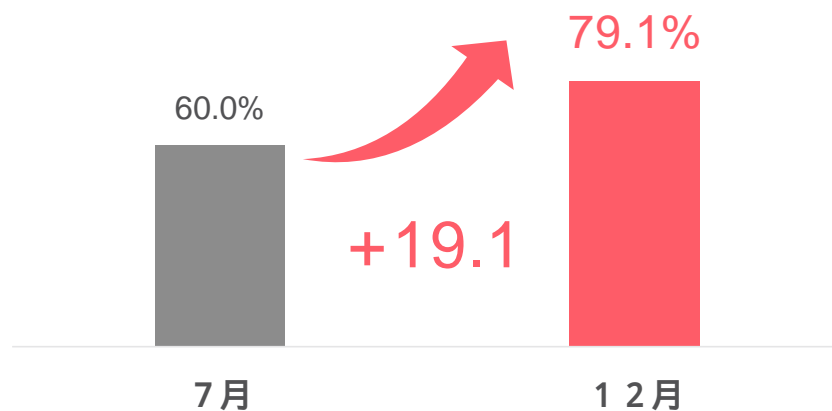


授業改善のポイントとして提示し、指導・助言した項目も

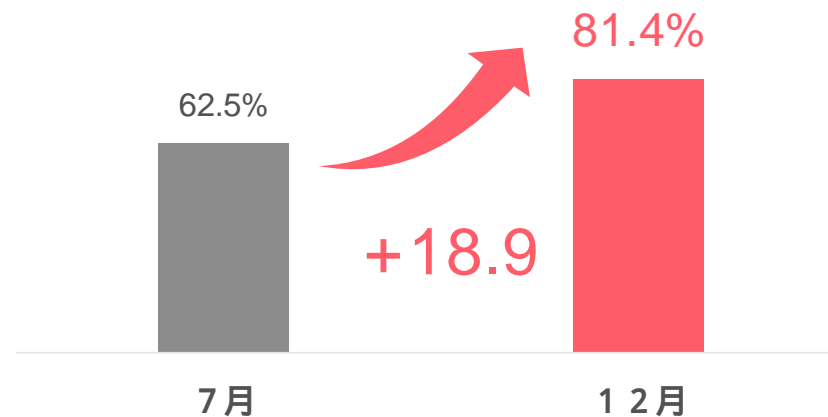
10ポイント以上増加

取組後のアンケートの変化から

7. 授業において、生徒にフィードバック（中間指導など）を行う。（実践）



9. 生徒に、授業で学んだことを生かして、各自の学習上の課題に取り組みさせる。（実践）



その他の項目についても、**肯定的な回答の増加**が見られた

取組後のアンケートの変化から



生徒用アンケートの結果

No	質問項目	7月	12月
1	私は、授業に興味や関心をもって臨んでいる。	87.3%	89.3%
2	私は、学習において目標を持ち、見通しをもって学んでいる。	82.3%	84.6%
3	私は、学習の成果や課題を振り返って、次につなげるようにしている。	83.5%	87.7%
4	私は、課題に取り組むことで考えが深まっている。	89.9%	91.9%
5	私は、効果的な学び方について考えている。	72.0%	81.7%
6	私は、授業で学んだことを練習したり、活用したりしている。	73.1%	82.7%
7	私は、学ぶことで自分の考えを改めたり、新しい考えを持ったりしている。	87.3%	91.1%
8	私は、先生が示す評価の観点を理解している。	87.2%	87.8%
9	私は、授業で学んだことを生かして、自分の学習上の課題を解決している。	81.9%	85.4%
10	私は、学習を効果的にするために、ICT端末を利用している。	78.0%	83.6%

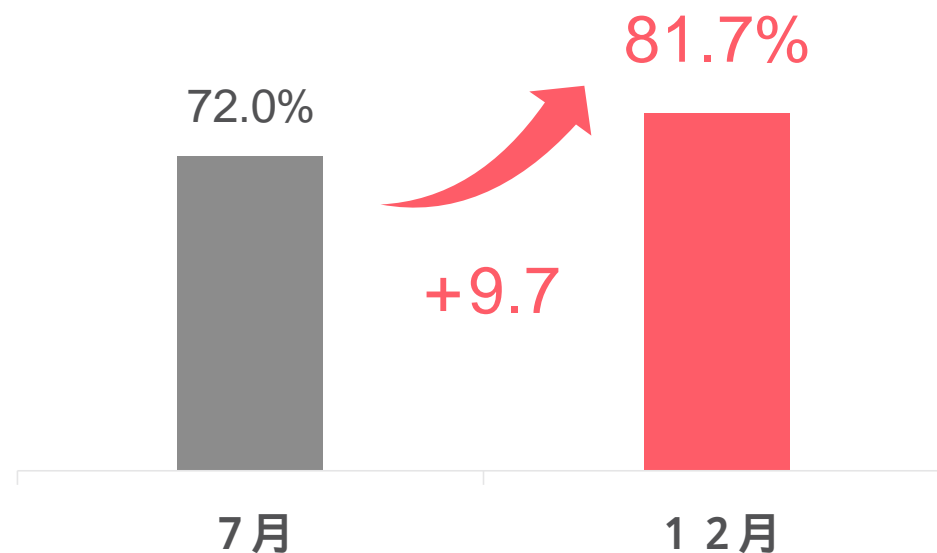
すべての項目において、肯定的な回答が増加した

取組後のアンケートの変化から

生徒が自らの学び方を考える指導



5. 私は、効果的な学び方について考えている。



授業改善のポイントとして提示し、指導・助言した項目が最も増加

研究の成果と課題 教員用アンケートの声から



- ICT端末を活用しての授業や授業内での振り返りシートの活用などに取り組む良い機会となった。
- 2年間ありがとうございました。新課程の評価など学ぶ機会となりました。
- 教材研究や授業改善の参考になることが多くてありがたいです。



- ◆ 観点別評価は試行錯誤の段階。評価方法に不安がある。
- ◆ 授業においてやりたいこと、やるべきことは数々あるけれど、時間的余裕がないのが現状。
- ◆ 県全体の授業改善，新課程の科目の理念の普及に資するものであったかということには，甚だ疑問を感じております。

研究の成果と課題



研究支援が推進校の授業改善に対する取り組みに好影響を与えた

- ① 指導主事が学校と協働する仕組み
- ② 校内研究組織の構築と運用
- ③ 学校内で研究を推進する契機



3学科を有する総合制高校において学校全体で取り組むことの難しさ

- ④ 学校全体でのコンセンサスの構築
- ⑤ 担当指導主事がない教科に対する支援
- ⑥ 学校を超えた取組の周知

研究推進校の先生方へ

山梨県立青洲高等学校の先生方、生徒の皆さん



2年間の研究推進校としての取組に感謝いたします
本センターの研究支援にご協力いただきありがとうございました

高校チーム

発表は以上です

終

総合教育センター



ID(インストラクショナル・デザイン)とは？

インストラクショナル・デザイン (Instructional Design : 以下 I D)とは、**教育活動の効果・効率・魅力を高めるため**の手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して**学習支援環境を実現するプロセス**のことを指す。

e-Learning 実践のためのインストラクショナル・デザイン (鈴木、2005) より

IDは教育だけでなく、医療や看護の分野、また企業研修などにおいても、「学び」に関わるさまざまな場面でその考え方が広く利用されています。またIDには多くの種類のモデルや実践方法があります。



参考文献・WEBサイトなど

『学習評価の在り方ハンドブック』（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

『教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』（2022）

『教材設計マニュアル—独学を支援するために—』北大路書房 （2002）

教育の方法と技術&授業設計マニュアルを活用しよう

<https://ina-lab.net/special/id/>

ケラーのARCSモデルについて（熊本大学）

<https://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/tgu/edu/arcs/arcs.html>

IDポータル（インストラクショナル・デザイン）

<https://idportal.gsis.jp/about.html>